

組織マネジメントを活かした校内研究の推進

～主体的な児童の育成を目指した教科横断的な教育課程編成を通して～

佐賀県唐津市立簗木小学校

校長 藤田 郁夫

指導教諭 小野 単子

I はじめに

新学習指導要領総則では、一人ひとりが自立した人間として多様な他者と協働し、状況の変化に対応していく資質・能力の育成のために、教科の目標として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱を挙げて「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」の視点が述べられている。

II 本校の概要

本校では平成28年度より4年間、各教科等における記述力の土台となる言語操作力と思考操作力を育成するために「レインボータイム」を設定し、カリキュラムと授業開発に取り組んできた。その成果として、ねらいや条件に沿った記述や読み手が分かりやすい表現・記述を意識する児童が増え、教師自身も様々な教科等で言語操作と思考操作を働かせる指導を行なうことができるようになってきた。課題としては、より実生活に関わる学習課題を設定し、解決に向けた探究活動の成果を振り返って次の学びにつなげる工夫、言語操作力・思考操作力と各教科の知識・技能等を関連付けて深い学びへつなげる手立ての構築が挙げられる。

そのような中で、令和2年度より2箇年計画で、佐賀県教育委員会より教育課程領域研究校の指定を受け、新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメントという新たな目標に向けた校内研究推進体制の構築が必要となった。

そこで、本研究では、「学び」部が中心となってこれまでの研究推進体制を見直し、学校経営ビジョンを踏まえた組織マネジメントを活かしながら、教職員による主体的な研究と3部の協働を目指した新たな研究推進体制を構築することにした。

また、学習指導要領の実施初年度に当たる研究一年次は、育成すべき資質・能力を総合的に活用・発

揮される教科横断的な教育課程を実施し、単元構想・授業づくりの実践を通して教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを目指すことにした。具体的には、これまで培ってきた言語操作力と思考操作力を、学習の基盤となる資質・能力として学習指導要領総則に示された「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」として再構築し、「資質・能力」「学習活動」「学習内容」を関連付け、単元や時間のまとまり、重点の置き方に工夫をして教育課程を整理する。そして、合科的・関連的な単元の中で各教科の見方・考え方や知識・技能をつなげて思考・判断・表現に活かす場面を効果的に設定した授業づくりを行っていく。さらに、特別活動の各活動・学校行事等においても他者と対話しながら学びを活用し、実生活での行動化を生み出す工夫をし、学びの可視化や検証を通してPDCAサイクルの確立を図る。

III 実践内容

1 研究の目標

- (1) 教職員の主体性と協働による成果を向上させるために、校長の学校経営ビジョンを踏まえ、組織マネジメントを活かした研究推進体制を構築する。
- (2) 児童の主体性と、自らの考えを広げ深める力を育成するために、資質・能力育成を目指した合科的・関連的な単元を構想し、実践を通してカリキュラム・マネジメントの在り方を探る。

2 研究の仮説

- (1) 「学び」「心」「体」の分掌3部の連携を軸とした組織マネジメントを活かすことによって、教職員の主体性と協働による成果が向上するであろう。
- (2) 資質・能力育成を目指した合科的・関連的な単元を構想し、各教科等の見方・考え方や知識・技

[illegible]

項目	チェック内容
単元	単元の学習過程 ※単元等のまとめで「 <u>問題解決的な学習過程</u> 」を仕組んでいる
単元全体の見通しと現在地の把握	※見通しとして学習の課題を整理させているが、最終的な達成目標は
本時の学習課題の把握	※児童生徒に「解決すべき本時の課題を把握」させている
個別の課題解決学習(Personal)	※課題解決の時間や場を確保し、グループによる課題解決学習(グループ)と個別の課題解決学習(個人)を適切に組み合わせる
クラスによる課題解決学習(Class)	

2★各科・関連の単元による課題の工夫
★レイボータイムとの関連

③ ○学習計画の作成
○日常生活や行事などと関連付けた単元ゴールの設定
○前時の振り返り

④ ○導入の工夫によって課題解決の意欲付け・必要感
○本時のめあての可視化

⑤ ワークシートの工夫 (思考の整理・可視化)
○自分なりのテーマ・考えの形成
○自分のデータに沿った情報収集

⑥ ⑦ GW/CW で思考の関連付け・整理・表現
○まなボード・短冊などの活用
○成果の共通点・差異点にマーカー付け・仲間分けなど思考操作

★各教科の知識・見方・考え方の関連付け
※ (し) 表や図・引用力・様式に合わせて書く力
※ 教科横断的な思考力・表現力・問題解決力

「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」として再構築し、単元や時間のまとまり、重点の置き方に工夫をして整理した。また、本校で継続的に取り組んできた、各教科等における記述力の土台となる汎用的な能力を系統的に育成する目的である「レインボータイム」を位置付け、教科横断的な視点から各教科との関わりを明確にした。(表4)

2020年度 第6学年 教科等年間指導計画 教育課程「カリキュラム」						
月	学習目標・内容	国語 (145)	算数 (175)	外国語活動 (70)	総合的な学習 (70)	社会 (105)
1	学習の基盤となる力を育める ①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・解決能力	書翰の賞賛、感動、愛を伝えること 賞讃し伝えたい ①問題活用能力 ②問題発見・解決能力	数量の図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠に基づいて推察すること。疑問・疑念を一時的に受け止めて、疑問の解決のために考えること	社会や自然、他者とのつながりに着目して捉え、コミュニケーションを図ること とらえ方・捉え方、状況等に応じて、情報と向き合い、情報発信すること	総合的な学習の場において捉え、社会・実生活の課題を探究し、自己の学びを問い続けること	位置や時間のながり、時間や時間の長さ、割合の大きさの理解、割合の大きさの活用 位置や時間のながり、時間や時間の長さ、割合の大きさの活用
2	基礎となる力を構築する ①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・解決能力	① 国語の基礎となる力を構築すること ② 国語の基礎となる力を構築すること ③ 国語の基礎となる力を構築すること	① 算数の基礎となる力を構築すること ② 算数の基礎となる力を構築すること ③ 算数の基礎となる力を構築すること	① 外国語の基礎となる力を構築すること ② 外国語の基礎となる力を構築すること ③ 外国語の基礎となる力を構築すること	① 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ② 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ③ 総合的な学習の基礎となる力を構築すること	① 社会の基礎となる力を構築すること ② 社会の基礎となる力を構築すること ③ 社会の基礎となる力を構築すること
3	基礎となる力を構築する ①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・解決能力	① 国語の基礎となる力を構築すること ② 国語の基礎となる力を構築すること ③ 国語の基礎となる力を構築すること	① 算数の基礎となる力を構築すること ② 算数の基礎となる力を構築すること ③ 算数の基礎となる力を構築すること	① 外国語の基礎となる力を構築すること ② 外国語の基礎となる力を構築すること ③ 外国語の基礎となる力を構築すること	① 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ② 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ③ 総合的な学習の基礎となる力を構築すること	① 社会の基礎となる力を構築すること ② 社会の基礎となる力を構築すること ③ 社会の基礎となる力を構築すること
4	基礎となる力を構築する ①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・解決能力	① 国語の基礎となる力を構築すること ② 国語の基礎となる力を構築すること ③ 国語の基礎となる力を構築すること	① 算数の基礎となる力を構築すること ② 算数の基礎となる力を構築すること ③ 算数の基礎となる力を構築すること	① 外国語の基礎となる力を構築すること ② 外国語の基礎となる力を構築すること ③ 外国語の基礎となる力を構築すること	① 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ② 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ③ 総合的な学習の基礎となる力を構築すること	① 社会の基礎となる力を構築すること ② 社会の基礎となる力を構築すること ③ 社会の基礎となる力を構築すること
5	基礎となる力を構築する ①言語能力 ②情報活用能力 ③問題発見・解決能力	① 国語の基礎となる力を構築すること ② 国語の基礎となる力を構築すること ③ 国語の基礎となる力を構築すること	① 算数の基礎となる力を構築すること ② 算数の基礎となる力を構築すること ③ 算数の基礎となる力を構築すること	① 外国語の基礎となる力を構築すること ② 外国語の基礎となる力を構築すること ③ 外国語の基礎となる力を構築すること	① 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ② 総合的な学習の基礎となる力を構築すること ③ 総合的な学習の基礎となる力を構築すること	① 社会の基礎となる力を構築すること ② 社会の基礎となる力を構築すること ③ 社会の基礎となる力を構築すること

(単元名) 場面に移り変わるとともに変化する気持ちに目を向け、新作品を紹介しよう

(教材名) 中核教材 「ごんつづね」(『国語』四下 はばたき 光村図書)

(時間数) 全の時間 本時〇/〇時間

1 単元について

(1) 他教科との関わりと児童の実態

この単元では、教科の基本となる見方・読解スキルの「人を惹きつける文章を書く」「教材「ごんつづね」を読み解くこと」を中心人物の性格を想像できるようにする活動を設けてみたいと思う。文章とはどのようなものかを考えることができるようにする。

本学級の児童は7月の国語の単元「惹きつける文章」とは何かが考え、学習して、自由な表現で自分の考えた歴史を知りたいという思いを感じていて、物語が描かれた表現方法に応じて、地域の秘密を探りたいと考えている。また、地域史に興味がある児童も少なくない。

《他教科との関わりと児童の実態》

- ①本単元でのしるい 指導経験
- ②本教材での活動 一教材研究
- ③児童の実態 一児童観

今までの学習でどんな力が身に付いているのか、学習の系統や何を学習してきたのか

*「～できない」という書き方はなく、十分ではない、課題がある、身に付ける必要がある 等

*その他教科に関する能力の実態を書く

④他教科との関わり

特に関わりやすい教科のことだけではない

【他教科とのつながり】

〔各単元の書き方〕
学年 家庭月「教材名」

国語
単元名
●単元を通して身に付ける力や思考
●他教科と関連して使う力

6年 9月「ごんつづね」
場面によって変化していく気持ちを捉え取り、読み解くこと

国語
●場面に移り変わるとともに変化する気持ちに目を向ける力を育む
●物語の展開や登場人物の行動や感情、関係の変化を考える力
●あらすじや登場人物の性格を入れて、短話を創作することの楽しさを知る力

6年 11月「お父さんのしるい」
伝統と文化のつながりを自分自身で感じ取り、大切にしたいことを伝える力

道徳
●家族の絆や郷土の文化の大切さを理解し、大切にしたいことを伝える力

【レインボータイム】

要約する力
見出しをつける力
表にまとめる力

要約する力
引用する力
構文に合わせて書く力

【本単元へのつながり】

6年 9月「国語の歴史を調べよう」
歴史上に残る歴史を知り、歴事に残る実物を調べる

社会科
●国語と歴史のつながり
●歴史の面白さを知る力

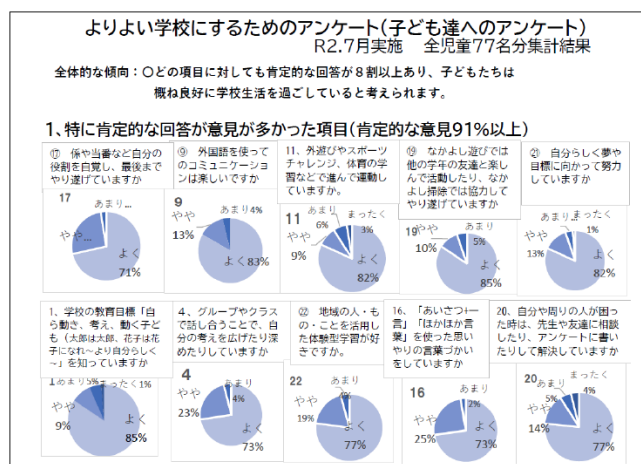
6年 11月「国語の歴史を調べよう」
歴事に残る歴史を知り、歴事に残る実物を調べる

社会科
●国語と歴史のつながり
●歴史の面白さを知る力

《他教科との関わり》

- 右側には主たる単元の流れ、西角算 総合・国語など他教科からの流れも可能な数値であれば算数のつながりがある単元を書く
- 左側には本単元に付きながらある単元、西角算 数は本単元に対して補充する単元
- 内容としてつながる単元
- 真ん中 レインボータイムで繋ぐ力 横西角 右左をつなげる力
- 主たる単元を補充する力 など

ウ 児童の変容を検証するアンケートの実施・分析
7月に、「よりよい学校にするためのアンケート」を、児童と保護者に実施し、実態把握に努めた。アンケート項目は、学校評価項目の成果指標と関連付け、併せて職員の業績評価目標との統一をし、年間2回の実施と改善によるPDCAサイクルに則った、より一層実効性のあるものを目指した。2回目のアンケート実施を、11月に予定しており、児童や保護者の変容から、教育活動の効果を検証していく。第1回目のアンケート結果（一部）は次の通りである。（資料2）



資料2 児童アンケート集計と分析結果(一部)

(4) 特別活動の各活動、学校行事等において、学びを活用・発揮する場面を工夫することで実生活での行動化へつなげる主体性を育む実践

特別活動の各活動・学校行事等においても他者と対話しながら学びを活用し、実生活での行動を生み出す工夫をし、学びの可視化や検証を通してPDCAサイクルの確立を図った。

ア 特別活動の各活動、学校行事によって、育てたい資質・能力と学習活動・活動内容の整理

表4の「教科等年間指導計画」に特別活動を位置付け、教科との関連を図りながら整理した。

イ キャリア・パスポートの開発と共有

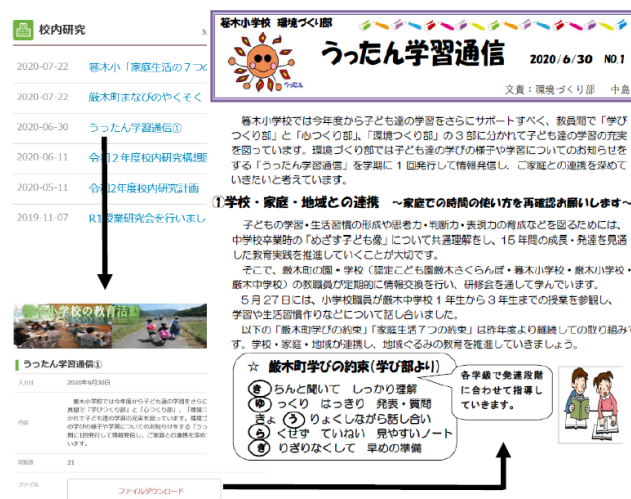
唐津市教育委員会による「唐津市『キャリア・パスポート』の概要」に基づき、心部が開発した、各学年5枚分のキャリア・パスポートの様式を、6月10日の第5回全体会で提案と共有を行った。

ウ 児童の変容を検証するアンケートの実施・分析

「よりよい学校にするためのアンケート」の中に特別活動や学校行事の項目を設け、教育活動の効果を検証していく。

(5) 児童の学びを可視化し、次の学びへつなげる学習環境づくりと地域・保護者への情報発信

環境づくり部(体部)が担当となり、児童が学習活動を自ら振り返り価値付けした学びの成果物の校内掲示、児童の生活時間改善や家庭学習習慣作りに向けての取組、地域・家庭との連携を目指した広報活動を推進している。(資料3)



資料3 本校ホームページ上の「うったん学習通信 No.1(一部)」

IV 実践の成果

指導教諭をチーフとし、「学び」「心」「体」の分掌3部の連携を軸とした組織マネジメントを活かすことによって、教職員の協働が促進され、新しい取組へつなげることができた。新学習指導要領に沿った新しい授業づくりに対する教職員の主体性も高まっており、その相乗効果が、よりよい学校にするためのアンケート(児童)において、全24項目で肯定的な回答が8割以上という結果につながったものと考えられる。

V 実践の課題

11月に、全員公開授業を計画している。これまでの積み上げを活かし、授業実践に取り組んだり、児童の変容を検証したりすることを通してPDCAサイクルを確立したい。そして、学びを発揮する場や学校行事の工夫を通して、児童の課題解決に向け見通しをもって追求し、次の学びや実生活に活かす児童の主体性と自らの考えを広げ深める力を育成していきたい。

《参考文献》

- ・文部科学省『小学校学習指導要領 総則』平成29年3月 p.5
- ・兵庫小実践資料『主体的に考え、判断し、行動する児童の育成～資質・能力育成を目指した教科横断的なカリキュラム・マネジメントを通して～』令和2年8月

《参考URL》

- ・唐津市立藤木小学校 『校内研究』
<https://www.education.saga.jp/hp/utsubogi-e/>